



久松山下の西高と工事中の大手門

(平成27年秋撮影：鳥取市教育委員会提供)



久松山下

# 青春の思い出

創刊号

二〇一六年三月一日発行

発行 行：鳥取西高近畿同窓会

発行責任者：米澤道隆(西高三九年)

編集責任者：山内紀嗣(西高四三年)

## 創刊にあたって

近畿同窓会長

米澤道隆(西高三九年卒)

この度、私達が過ごした久松山下での熱き思い出を長く記憶に留め、共に語り合うため、「思い出集」を発行することになりました。

この地での経験や体験は数十年を経ても決して色あせることなく鮮明に蘇り、多くの皆様に共感いただけるものと確信しています。引き続き、寄稿へのご協力をお願い申し上げますとともに、本集が近畿同窓会の新たな絆となることを期待して創刊のご挨拶といたします。

山中孔(一中五四回)

鳥取一中の五年間は正に戦争の時代であった。即ち一年生(昭和十二年)日支事変がおこり、五年生(昭和十六年)太平洋戦争がおこる。友人の多くは戦争に参加し戦死した友もいる。戦後は夫々企業の幹部となり、大きく社会貢献を果たしている。当山中家は明治時代、鳥取に銀行を経営し、鳥取一中名簿の山中姓八名総て親戚である。本籍も鳥取に残しており、行政の教育立県に多少でもお手伝いできればと考えている。

村江汎愛(一中五五回)



昭和一六年〜一七年は勤労奉仕に明け暮れた。的場地区の大路川の拡幅作業、松並町付近の旧千代川の埋め立て作業、浜坂砂丘に兵舎を建てるための地均し作業など、それぞれ約一週間、いずれも毎日日用品を担いで作業場まで歩いて行き、スコップ片手に土おこしと運搬・整地とブルブルと汗をかきながらヘトヘトになるまで作業が続いた。私はラッパ部でもあり、作業の遅れ、気合い入れなどの際には「ラッパを吹け！」と命令された。七十数年前の思い出のひとつである。

浜本英子(高女二四年卒)

昭和二〇年の入学、前年暮れに一中側の校舎が消失して一年生も焼けぼつ杭を片付けて南瓜を植え付ける作業もしました。四月頃でしたか学徒動員の白鉢巻姿を見送る事になり、その中には旧藩主令嬢の学習院のセーラー服が印象的でした。どんな仕事をなさるだろう?と思いつつながら。終戦後は三、四年専攻科生の学校復帰に伴い校舎不足で二部授業だったり、食糧増産の手伝いで地元農家の手伝いとか、学校に出ても教科書の墨塗りつぶしとか、新しい校舎が建つまで落ち着かない日々でした。

村山龍夫(西高二五年卒)

私は、昭和二四年四月当時の学制改革により鳥取二中からかなりの生徒が集団転校といった形で西高三年生となりました。クラスの担任は香川先生という大学では哲学を専攻された読書家の方と聞いていました。西洋史の授業の中で、時に「ものの考え方」などを話され、普通の授業とちよつと変わってよい勉強になりました。あつという間に一年が経ち、気が付いたときは二五年三月西高第一回卒業生となりました。その後鳥取を離れましたが、歳をとると共に西高当時を懐かしく想う今日この頃です。



武田彰正(西高二六年卒)

二年生の時に三年生の人と同期生三、四人で写真部を作り、各ホームルーム員の集合写真を撮り、大学受験用の写真就職用の写真等も撮って勉強する時間がなかったのが思いです。



佐々木清臣(西高三〇年卒)

入学したばかりの四月一七日の大火事、汽車通学の私にとって大丸百貨店の屋上から見ていると、飛び火で次から次へと燃えていく様子は今も忘れられません。二年生の夏は湖東中学出身の竹中君、渡辺君が甲子園での活躍です。現在のように応援団のバス等ありませんでしたが、幸い兄が大阪にいましたので応援に参加したことです。

今年の百周年記念にも第一回に参加した一中の人の夢をもう一度と新聞、テレビで情報を楽しみにしていましたが、決勝で敗れました。今後も頑張ってください。楽しみにしています。

田井勇(西高三二年卒)

朝六時半頃の汽車で若桜線八東駅から商業科に通った。身内に金融マンが多かったこともあって何となく銀行への就職を志向していた。



銀行へ就職の場合、珠算と簿記は必須と思ったのでクラブ活動は珠算部に入部、珠算検定試験合格を目指した。一方、珍しさもあって英文タイプも並行して練習した。

農繁期には農業を手伝い、その後夜遅くまで「珠算検定試験練習問題」に取り組み、正確さとスピードアップに繰り返して挑戦、寝ても覚めても「珠算検定試験」の事ばかり。必死に努力した結果、二、三年生の時に、珠算と簿記の検定は一級英文タイプは三級に合格、一応目指していた目標は達成、お陰様で希望通りの銀行に就職することができた。

当時練習した英文タイプは現在のパソコン操作で指の運びに大いに役立つという。非常に充実した有意義な三年間であった。

世話になった先生方や諸先輩に感謝している。



### 尾崎宗昌（西高二四年卒）

私は八東部中学から西高商業科へ入学しましたが、小さい時から音楽好きだったのに反し、就職には音楽は必要ないと当時の学校の判断で選択科目から音楽は外され、私は無理に書道へ入れられてしまいました。でも立派だった小幡先生の教育が受けたくて音楽部へ入り教室の片隅に設けられた部室で普通科の生徒の授業を無料で一生懸命勉強していました。

そして翌三二年夏はNHK合唱コンクールで県一位となり、その次の年三年には全国三位となり東京へ招待されてテレビ出演できたのでした。まだ鳥取では高級喫茶店くらいしかテレビの無い時代でしたが、卒業の時、「西高の名を高めたことにより表彰され、その時の部員の一人として私も末席に居させて頂いたことがその後の私の人生を支えてくれました。

卒業して日本楽器の運営するピアノ技術学校を出て、そのまま（現ヤマハ）就職して技術科で働いていますと、西高創立百周年の流れの中で天皇・皇后陛下の御行幸があり（四〇年）、四八年には百周年の式典がありました。私は大阪支店からその時使うFCの立派なピアノの調律を仰せつかり、母校鳥取西高へ派遣されました。ピアノは先輩の実業家の方の寄贈でした。

そのあと何日か滞在し、アコヤさんから鳥大の立派な先生宅へ何軒か回らされてピアノ診断のようなことも致しました。

寄贈者の名前は思い出せませんが、私も立派なヤマハピアノを寄贈したいと思っています。現在、ヤマハ東京銀座店の永久外部チューナーとして大阪テリトリで働いています。



### 米村博昌（西高二四年）

#### 「西陛下のこと」

西高三年の昭和三三年秋に「皇太子妃に正田美智子さん決定！」と図書館入口に写真広報紙が掲出され、東京に就職が決まっていた私は「馬車行列の両殿下を拝見できる」とラッキーに思い、その日を心待ちした。あにはからんや、私の就職した会社が馬車行列の日は稼働日で拝見がかなわず、その失望が三年後の退社の大きな原因の一つになった。

ほどなく私は大阪の警察官になり警察学校在校中に皇太子・同妃殿下が堺の仁徳天皇陵に参拝され、大阪の宿舎に向かわれる途中、難波・高島屋前交差点に警護配置に就き、二、三メートル前を通過した御料車の全開の窓から手が出るばかりに振られる両殿下に妃殿下が黄色のスーツだったとはいえ本当に後光が差していたのを拝見しました。

そして退官して古希の年（平成二三年春）に叙勲の栄誉を受け、妻と皇居参内を許され天皇陛下の一メートル側での拝謁の榮に浴すことができました。特に「天皇陛下万歳！」の幸栄の極みでありました。このように今上陛下・同妃殿下との私の拝謁の機会は最初が潰れましたが、直近の位置で皇太子の時と天皇陛下の時の二回となりました。思えばあの西高三年の時の出来事がその後の私の人生に不思議な縁となつて、脈々と流れていくことを感じつつ、未永いご健勝をご祈念申し上げるばかりでございます。

### 岩永建夫（西高二二年卒）

#### 「文武併進」

東京五輪開催の昭和三九年、一年生だった私は運動部でもないのに校内マラソン六位になったのがきっかけで、吹奏楽コンクール後のオフシーズンは陸上部駅伝選手と二股かけることに。出場した米子・鳥取駅伝で青谷・浜村を走る。

距離は六・八キロと最短ながら魚見台峠越えの難所あり。三人抜くも社会人（日交バス）に抜かれる展開、区間六位はチーム内最高。それを西高に異色の選手登場とローカルニュースで紹介するものだから母親は大喜び。目立ったのは私だったが、チームの絶対エースは同級のY君。彼との直接対決は三年間で一メートル差ゴールが精一杯、私の全敗。

その彼も陸上選手専業になる前、実はブラバン仲間だった。私の文武併進の一曲マでした。



#### あとがき

本来ならお送り頂いた方全ての原稿を掲載できた良かったのですが、紙面の都合により、第二号へまわすこととさせていただきます。ご了承下さい。

（事務局）